

VUV-11 特集

## はじめに

渡辺 誠

東北大学科学計測研究所\*

第11回真空紫外放射物理学国際会議 (The 11th International Conference on Vacuum Ultraviolet Radiation Physics, VUV-11) が去る8月27日から9月1日まで立教大学で開催されました。この会議は日本学術会議と本学会の共同主催によるもので、国際的にはIUPAP (国際純正応用物理学連合, ユネスコの一機関) の後援を受けました。一回目のこの会議は1962年にアメリカで開かれました。その頃は光源として放電管, X線管などしかなく精密な実験は難しかったわけですが, 御承知の通り放射光の出現とともにVUVの研究は大きく発展しました。以前の会議の回想とVUVの発展につきましては, VUV-11の組織委員長の石井武比古先生の記事が本学会誌, 第8巻第2号, 第3号にありますので御覧下さい。

さて本特集号は今回のVUV-11を機に企画されました。今回の会議でのVUVの定義は5~3000eVの光としました。VUV-11のプログラムは大きく分けると, 原子・分子, 固体・表面, 装置・応用の三つに分類できます。プログラム全体は, 原子・分子の高分解の分光, 方向の指定やスピン分解をした光イオン化の研究, 光電子分光, 発光分光等による機能性物質や表面・界面の電子状態の研究などの基礎的な研究から, 分光器, 挿入光源, 顕微鏡等の装置に関する研究や表面における光化学やリソグラフィーなどの応用研究まで幅広く包含しています。VUVの会議ですから, 放射光を用いた研究ばかりでなくプラズマ, レーザー, 天文等の分野も含まれていますが, 本号では放射光にかかわるものに記事を絞りました。本号には各分野の代表的な研究者による先端的分野の解説, VUV-11における各分野の研究発表のまとめ及びVUV-11の前後に開催されたサテライトミーティングの報告が収録されており, 非常に充実したものになっております。VUV研究の進展を概観できますので, ぜひ御一読下さい。また著者の方々にはご多忙中執筆を引き受けて下さいまして誠にありがとうございました。

今回の会議は24年ぶりに日本で開かれました。このこともあって大いに盛り上がり国内から334人 (在日外国人17を含む) の参加者がありました。国外からは172人 (在外

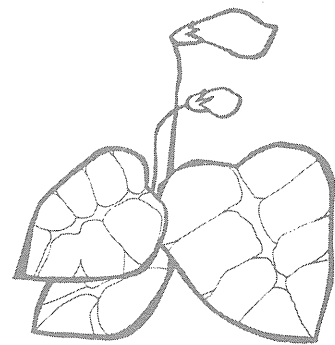
\*東北大学 科学計測研究所 〒980-77 仙台市青葉区片平2-1-1  
TEL 022-217-5376 FAX 022-217-5379

日本人3を含む)が参加し活発な討論, 情報交換ができました。会議の前後に国内各地で日本人研究者と外国人研究者の交流も行われ, このような点からも有意義な学会であったと思います。伝統ある落ち着いた雰囲気の学舎で会議を持つことができ, 立教大学の方々に厚く御礼申し上げます。またこの会議を支援していただきました学協会, 財団および企業の方々にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。プロシーディングスは来年の春に J. Electr. Spectr. Rel. Phenom. (Elsevier) の特別号として刊行されます。次回は3年後にアメリカで開催される予定 (Chairman : N. Smith, LBL) です。

#### 一口メモ

### シクラメン

師走になりますと今年一年間お世話になりました方へのお礼をとあれやこれやと考えますが, 頭の中に浮かんでくるのは花屋さんに所狭しと並んでいる冬の鉢花の女王的存在のシクラメンです。サクラソウ科シクラメン属の球根草花でして, よく管理すれば暮れから次の年の4月頃まで花を楽しめます。花の色は赤に限らず, 白やパステルカラーの品種が多くあり, 個人の好みにより選べます。水は必ず鉢土に直接やって下さい。そうしませんが, 球根部がくさってしまいます。夏場に日陰の涼しい場所に休眠状態にしておきますと, 再び冬に開花します。



(K. Ohshima)